2

2023 年 5 月 29 日　定期理事会
2023 年 5 月 29 日　定期評議員会

東京神学大学 事業報告書（2022 年度）

Ⅰ　法人の概要

１．設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。2022 年度の入学定員は学部 5 名、別途 3 年編入学定員 20 名で、学部総定員は 62 名、大学院博士課程前期課程入学定員は各専攻 15 名、博士課程後期課程入学定員は各専攻 2 名です。2022 年度の学生数は学部 38 名、大学院 35 名、計 73 名（2022 年 5 月 1 日現在）。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「東京神学大学は日本基督教団の教職養成の責を担うものであるが、それとともに合同教会としての教団の世界教会的理想に従い、より広く日本の諸教会、アジアの諸教会の教職養成に貢献し、かくして日本の宣教と世界教会の宣教とに奉仕しようとするものである。」

２．東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

1859（安政 06）年　プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
1872（明治 05）年　横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
1873（明治 06）年　宣教師のＳ・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
1877（明治 10）年　「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
1904（明治 37）年　植村正久牧師により「東京神学社」設立。
1930（昭和 05）年　本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
1941（昭和 16）年　プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
1943（昭和 18）年　教派ごとに分かれていた 15 の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の 3 校に統合される。
1944（昭和 19）年　「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
1945（昭和 20）年　「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
1949（昭和 24）年　新制度による大学として「東京神学大学」となる。
1951（昭和 26）年　私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
1966（昭和 41）年　三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。

1968（昭和 43）年　本館東部部分を増築。
1986（昭和 61）年　本館から独立させて図書館棟を建設。
2011（平成 23）年　韓国イエス教長老会神学大学校と相互協力協定を結ぶ。
2020（令和 2）年　教員住宅を更新。
2021（令和 3）年　学生寮を更新。

３．役員・教職員の概要（2023 年 3 月 31 日現在）

(1) 理事（18 名）

理事長	近藤　勝彦	理　事	小林　　眞
学長理事	芳賀　　力	〃	佐々木美知夫
財務理事	長山　信夫	〃	嶋田　順好
常務理事	藤掛　順一	〃	楠本　史郎
〃	棟居　　洋	〃	D.リーディー
〃	黒沼　　健	〃	東野　尚志
〃	湊　美都子	〃	松井　　睦
〃	安藤　良一	〃	小山　美弥
理　事	高橋　　潤	〃	河田　直子

(2) 監事（2 名）

監　事	小山田小八郎
〃	齋藤　　孝

(3) 評議員（37 名）

評議員	岡村　　恒	評議員	藤掛　順一
〃	山畑　　謙	〃	山縣　史子
〃	服部　　修	〃	黒沼　　健
〃	武田　真治	〃	小泉　　健
〃	小林　　眞	〃	芳賀　　力
〃	鈴木はるこ	〃	神代真砂実
〃	郷田　　敬	〃	井ノ川　　勝
〃	望月　　修	〃	佐々木美知夫
〃	安藤　良一	〃	小堀　康彦
〃	湊　美都子	〃	古屋　治雄
〃	宍戸　基男	〃	黒米　理恵
〃	市川　一宏	〃	渡邊　義彦
〃	松井　　睦	〃	小山　美弥
〃	A.キスト岡崎	〃	D.リーディー
〃	高橋　　潤	〃	嶋田　順好
〃	東野　尚志	〃	棟居　　洋
〃	河田　直子	〃	片桐　牧雄
〃	長山　信夫	〃	戸塚　智之
〃	楠本　史郎		

(4) 教育職員（13 名）

学　長	芳賀　力	教　授	長山　道
教　授	神代真砂実	准教授	田中　光
〃	小友　聡	常勤講師	本城仰太
〃	中野　実	特任教授	棚村重行
〃	W.ジャンセン	〃	朴　憲郁
〃	小泉　健	特任常勤講師	矢田洋子
〃	須田　拓		

(5) 事務職員（13 名）

事務長	片桐牧雄		
総務課	戸塚智之	今中匡彦	山田雅子
経理課	光永　豊	今中匡彦	
財務課	松本秀則		
教務課･学生課	萩原なおみ	小林由希子	原田恵美
	木村訓子		
図書館	木下真由美	岸本苑子	鮎川千織

Ⅱ　事業の概要

2022 年度は、2021 年度に引き続き、なお新型コロナウイルスの感染防止を図りながらの大学運営となり、種々の活動が削がれ、苦渋の運営が強いられた年度であった。こうした中、本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を、ここで報告する。

１．教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学は、寄附行為前文、また学則に規定されているように、伝道献身者の養成を目的とし、そのための教育体制を整えている。しかし、2017 年度より神学研修志望枠を設けて、信徒として教会やキリスト教学校、キリスト教施設等を支えようとする方々にも学部の学びを開放し、そのような広義の伝道者の養成も使命と捉えるようになった。2022 年度には、この枠で 6 名が入学した。神学研修志望枠での入学者には、従来の伝道献身者枠への志望の変更が認められている。2022 年度には、2 名の志望変更志願者があった。

また、伝道献身者を育成するという一つの目的の下で、学部と大学院それぞれの教育の果たすべき役割を明確にすべく、既にそれぞれの学則に、学部と大学院それぞれの目的を記載しているが、2022 年度はディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの３つが一体的に策定されるよう、「３つのポリシー策定の基本方針」を制定し、さらに、アドミッションポリシーについて、できるだけ具体的な記述となるよう、改定した。また、学修成果の多様な測定指標の策定が求められる中にあって、既にアセスメントポリシーを策定していたが、これを改定し、学部・大学院博士課程前期課程・大学院博士課程後期課程それぞれについて定め、年度末にはアセスメントポリシーに基づく、機関レベル及び教育課程レベルの検証を行った。

博士課程後期課程については生産性の向上が課題であり、様々な改革を進めてきた。2021 年度には 1 名、2022 年度にも 1 名について論文博士による学位の授与を行ったが、課程博士については 2018 年度に通算 3 例目を授与して以来、授与者がない状態が続いている。2022 年度は新たに 2 名が入学した。引き続き、牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながらの研究となるため、長期履修制度等の活用による生産性の向上が期待されるが、さらに十分な研究時間を確保して学び続けることができるよう、制度改革や支援の拡充に取り組んで行きたい。2022 年度は、大学院研究科の FD として、芦名定道先生（関西学院大学教授）を講師として研修を行ったが、他大学における制度や支援のあり方を知る機会ともなった。

２．教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成（FD）

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で,授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示した。

また、FD 活動の一環として、また、大学基準協会の求めにも応じるかたちで、本学の研究倫理規程の内容を教授会メンバー全員で確認し、引き続き遵守することを申し合わせると共に、2023 年 1 月 12 日に大学院研究科の FD として、芦名定道先生（関西学院大学教授）を講師として「論文指導と評価」をテーマに研修を行った。

b. 大学院博士課程後期課程研究発表会

2022 年 6 月 21 日の一般時間に、大学院博士課程後期課程研究発表会を開催し、在学中の見城康佑氏（旧約聖書神学）と飯田仰氏（歴史神学）が、それぞれ研究発表を行った。講演会は 12 月に行われた。

c. 日本伝道研究所主催講演会

日本伝道研究所の活動を活発化させるべく、日本伝道研究所主催の講演会を年1回開催している。2022年度は12月6日に保科隆牧師（隠退教師）により、「日本人の宗教性とキリスト教」をテーマとする講演が行われた。

d. 教員・教育組織

2022年度から矢田洋子特任常勤講師が任用され、これにより、教育職員の定数14名が確保された。しかし前期末をもって焼山満里子教授が退職し、年度末に棚村重行特任教授が定年を迎えることから、2023年度から2名を任用することを目指し、交渉を進めた。この交渉の状況を踏まえつつ、「東京神学大学特任専任教員の任用に関する内規」を制定し、日本基督教団および関係教会以外の福音主義教会の教職者、あるいは信徒を特任専任教員として任用する場合を規定するなどした。

3．学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2022年度には、神学部・神学科1年次に5名、同3年次に11名、学部としては合計16名の入学者を迎えた。なお、このうち6名は神学研修志望による入学である。全体としては献身者の数が大幅に不足している。大学としての定員充足の問題にまして、諸教会・学校に伝道者を送り出す使命を果たすために、献身者を呼び起こし、学生を受け入れる不断の努力が今後も必要である。

b. 高校生会、青年の集い、オープンキャンパス行事など

① 高校生会には、毎年、首都圏の諸教会から高校生が集まるが、2022年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。

② 本学と発起人教会によって行われている「日本伝道を担う青年の集い」は、毎年9月に本学で開催されるが、2022年度はコロナ禍の影響がなお残ることを考慮して、出席者数を制限して、対面とオンラインのハイブリッドで開催した。礼拝説教を芳賀力学長に、献身の喜びを岡田真希牧師（三宅島伝道所）にお願いした。全体で40名、内学外から13名の参加があり（内オンライン2名）、そのうち3名が受験相談をした。

③ 「オープンキャンパス」は、2022年12月3日に実施され、学外からは23名の参加があった（内オンライン5名）。そのうち受験相談には8名が参加した（内3名はオンライン）。コロナ禍の中で限定されたプログラムではあったが、例年通り開催できたことは幸いであった。こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。

④ 青年の集いやオープンキャンパスの終了後の受験相談は確実に受験に結びついている一方で、入学志願者への働きかけとしては時期が遅いとの指摘があったため、数年前から、より早い時期に「入試説明会」を行っている。2022年度は7月16日に開催された。18名の参加者があり、11名から受験相談を受けた（内1名は電話による）。

⑤ 2013年度より「派遣プログラム」として、全国の教会やキリスト教学校に学生を派遣し、献身の喜びを語ってもらうようにしている。2022年度は20名が20校に派遣された。

⑥ 2023年3月11日、学生会主催の第2回「ユースフォーラム」を開催した。32名の参加があった。青年は12名であった。

4．学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2019年度に視覚障がいを持つ学生1名を受け入れた。この学生は日頃の授業等での配慮

は必要としていないが、文献を読んだり文書を作成したりすることに時間を要するため、試験の時間を延長するなどの措置を講じている。2020 年度に学部での学びを終え、2021 年度から大学院博士課程前期課程に進学し、2022 年度末に大学院博士課程前期課程を修了した。

障害者差別解消法の施行により設置された自動ドア、エレベーターなどは、病気やけがを抱え、移動が困難な学生たちにとっても大きな助けとなっている。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015 年以来毎年 4 月に行っている神学校全学集会では、本学を構成するすべての者たちが召命共同体として自覚を持ち、使命感を明確にして共に学校生活を形作っていくための大切な機会となっている。また、伝道者養成のために学問としての神学を学ぶだけでなく、生活全体を献身者として整えていけるように「生活倫理講座」を行っている。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

2022 年度の夏期伝道実習は、新型コロナウイルス感染対策のため万全な備えをしたうえで各地に実習生を派遣した。期間は、8 月 7 日～9 月 4 日の期間で行われた。実習参加者は、学部 4 年生 14 名、大学院修士課程 1 年生 11 名合計 25 名であった。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、実習委員会の教員たちが参加学生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

神学生が出席している教会の牧師と教授会との懇談会を後期始業式の後に行ってきているが、2022 年度は後期始業式・始業講演を学内者のみで行った。「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」は出欠のはがきを利用して近況報告を書いていただくと共に、9 月 20 日に懇談会を実施した。

d. 留学生との懇談会

毎年、留学生全員と教授会メンバー全員とで懇談会を持っている。留学生の一人一人が学びや生活の状況を話し、またあまりかかわりのない教員とも交流を持つ機会となっている。2021 年度はオンラインだったが、2022 年度は対面で実施することができた。しかし、依然としてコロナ禍であったため、教授会からは留学生委員会のジャンセン教授のみが参加した。留学生は 4 名全員が参加した。

e. 卒業予定者の就職状況

2022 年度は、大学院修士課程前期 2 年生の修了者は 10 名、学部からの卒業者は 3 名、計 13 名が巣立っていった。大学院で学んだ 10 名のうち、2 名は他教派からお預かりした人であった。残りの 8 名は日本基督教団の教会に遣わされて行った。

５．社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国のイエス教長老会神学大学校との交換教授プログラム

2022 年度はコロナ禍のため交流を中止した。

b. 学校伝道協議会

2022 年 5 月 28 日に第 23 回キリスト教学校伝道協議会をオンラインで開催した。主題「コロナ禍での人格教育」、50 名近い参加があった。

c. 日本伝道フォーラムおよび東京神学大学後援会公開講演会活動

① 2022 年 6 月 6 日に第 4 回日本伝道フォーラム（主題「改めて『教会の使命』を問う」）をオンラインで開催した。130 名近い参加があった。

② 2022 年度は全国 16 地区の東京神学大学後援会が公開講演会を行い、延べ 146 教会、606 人が参加した。2020 年度以来、新型コロナウイルスの感染拡大により講演会を行うことができずにいた地区も、2022 年度は徐々に再開した。

d. 教職セミナー

教職セミナーは毎年1月に開催され、学内外100名以上の参加者を与えられている。従来は国立オリンピック記念青少年総合センターで2泊3日で開催していたが、コロナ禍のもと、2020年度以降はオンライン(Webex)を介しての開催となっている。2022年度も2023年1月10日（火）に「教職者のためのオンライン・シンポジウム」として開催された。主題は「聖書的語りの共同体」で、2022年度末を以て定年となる芳賀力学長により主題講演がなされ、さらに旧約、新約、組織、実践の神学各分野から六つの発題がなされた。100名近い参加者があった。

e. 東京神学大学公開夜間神学講座

本講座は、毎週2回（月・金曜日：午後6:00～8:00）、銀座教会の福音会センターおよび5階会議室（2021年度から）で開催されてきた。敗戦後まもなくに創設された長い伝統をもつ、信徒のためのユニークな神学講座である。各年度は3学期に分かれ、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、教会史、世界宗教史、キリスト教美術、キリスト教音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶことができる。2年間で全科目を終える正規生に加え、科目受講生、聴講生の制度もある。

2022年度には、76期生を7名迎え、会場を銀座教会の5階会議室に移し、対面で実施した。2022年度の修了者は正規生2名、科目受講生2名であった。

６．内部質保証（自己点検評価）にかかわること

a. 東京神学大学「内部質保証向上委員会」の機能の実質化

2013年7月に本学の「内部質保証向上委員会」が設置され、本学における内部質保証体制に責任を持つことになった。2018年度にその規程等が整備され、2019年度からは、内部質保証向上委員会を中心とした内部質保証体制を実質化させた。2022年度は、自己点検評価規程を改定して、自己点検評価において挙げられた課題をまず内部質保証向上委員会が把握して改善を指示することを明確にした。また、自己点検評価や理事会・評議員会の懇談会における提言、神学校生活懇談会、卒業時アンケート結果などを踏まえ、内部質保証向上委員会から、特任教員の位置づけについての課題や、博士課程後期課程の学修成果測定方法の策定、大学院博士課程前期課程・後期課程のアドミッションポリシーの改定、広報活動のあり方の改善、今後の教員組織の計画を立てる必要性などの課題が提言された。これらは特別教授会に報告され、各部署や教授会で検討され、それぞれ改善が図られた。

７．施設や設備に関する主たる事業について

a. 新型コロナウイルス感染防止対策

2020年度新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本館・図書館・学生寮の出入口にアルコール消毒液とマスクを設置した。また、各教室出入口にもアルコール消毒液を設置し、併せて各教室に「３つの密を避ける」ポスターを掲出した。2021年度は更に、各教室の机に「着席不可」のラベルを貼付し密を避けるようにし、また、授業終了後に各教室の消毒を行った。

図書館では、2021年度より引き続き2022年度も利用者間に感染拡大が発生しないように各種の対策を講じた。対策は本学が制定する「新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限指針」に則り、各図書館協会のガイドラインを参考にした。まず、学外利用者の受付を停止し、学内利用者には入館時のマスク着用と手指の消毒を義務づけ、距離を取っての利用を促した。さらに、入館人数と閲覧席数も制限した。午前と午後に図書館施設のみならず図書館棟全体の消毒を行い、カウンターも利用者との間を難燃性のビニルカーテンで仕切った。また、従来はアルバイト学生のシフト人数を同時に複数としていたが 1

人に限定した。感染防止のため職員のシフト勤務も行った。

b. 新型コロナウイルス感染拡大状況下での授業等実施について

2020 年度以来の新型コロナウイルス感染症の拡大状況下にあったが、神学教育は単に知識を伝達することに留まらず、伝道者としての人格が形成されることが重要であることに鑑み、2022 年度は授業については原則として対面とした。ただし、状況に応じて Webex による遠隔実施・対面参加を許容し、授業の実施そのものが滞ることがないよう留意した。同時に、学修に係る諸連絡に於いては、従来の学内掲示・配付物による方法に加え、大学ホームページの在学生ページへの掲載およびメールによる個別連絡を併用し、受講生と教職員の間の情報伝達が迅速かつ確実に行われるよう努めた。

c. オンライン環境の活用

2022 年度は授業については原則として対面としたが、主に非常勤講師の担当する授業について、講師の本務校からの要請等による場合など、一部の授業について Cisco Webex を利用したオンライン授業を併用した。また学内での集会においても、密を避けるため会場を分散して Webex によるサテライト会場（集会室と大教室など）を設けるなどした。

オンライン授業を実施するにあたり、図書館所蔵資料などを利用する場合に「授業目的公衆送信補償金制度」を適切に運用するため、授業目的公衆送信補償金として学生総数（74 名）及び公開講座等分の手当てを行った。

図書館資料に関しては、教員のリクエストに応えるべく文科省私学助成金を申請して電子書籍「RGG４+」を導入した。これは「Religion in Geschichte und Gegenwart（ドイツ語版）第４版」およびその英訳「Religion Past and Present Online」のオンライン版セットである。「RGG」は総合的宗教事典ともいえる本学における各研究分野に必須の文献であり、冊子体は既に所蔵しているが今回のオンライン版の導入に活用の一層の広がりが見込まれる。

d. C 教室の PC 機器リプレース

C 教室に設置しているノート型 PC（2014 年 3 月設置、2016 年に SSD へ換装）の Windows 8.1 のサポートが終了したため、2022 年 4 月に Windows 10 搭載のノート型 PC へのリプレースを行った。すでに C 教室周辺での Wi-Fi 環境が整っているため、ノート PC の持ち込みを可能とし、設置台数を 20 台から 13 台へ減らした。また、C 教室に設置のプロジェクターを 2023 年 1 月に交換した。

e. 本館の空調機の更新

2022 年度は、研究室（1 室）の空調機更新を行った。（飯田研究室）

f. 主な修繕工事

① 照明器具を LED に交換した。2022 年度は、ラウンジ、本館 1 階会議室および事務室を LED 化した。

② 図書館棟の消防設備が経年のため、更新工事を実施した。

③ 樹齢 50 年を経過したサクラを伐採（ルーテル学院との境界部分）した。2023 年度は中近東文化センターとの境界部分のサクラを伐採する計画で予算化した。

g. キャンパス整備事業

2019 年度に教員住宅が、2021 年度に学生寮が完成し、供用を開始している。研修センターの建設は学生数減少に伴う減収を危惧し、資金計画に目途がつくまで一旦中止とした。2022 年度もその方針を維持した。

８．主たる行事

(1) 4 月 1 日　入学式・前期始業式
　　式　　辞：芳賀　力学長
　　始業講演：中　止
(2) 4 月 1 日・2 日・5 日・6 日　新入生・新編入生オリエンテーション
(3) 4 月 4 日　公開夜間神学講座　開講式・神学入門　銀座教会
(4) 4 月 8 日　前期授業開始
(5) 4 月 11 日　公開夜間神学講座　１学期開始　銀座教会
(6) 4 月 19 日　神学校全学集会
(7) 4 月 22 日　クラス別懇談会
(8) 4 月 26 日　生活倫理講座
(9) 5 月 17 日　全学懇談会
(10) 5 月 24 日　前期学生総会
(11) 5 月 27 日　運動会
(12) 5 月 28 日　キリスト教学校伝道協議会（オンライン開催）
　　主　題：「コロナ禍での人格教育」
　　教員免許状更新講習
(13) 5 月 31 日　学位授与式
　　授与者：田中従子氏（自由が丘教会担任教師）
　　論文名：「ナジアンゾスのグレゴリオスにおける聖霊論の基盤と展開の研究」
(14) 6 月 6 日　日本伝道フォーラム（オンライン開催）
　　主　題：「改めて『教会の使命』を問う」
(15) 6 月 14 日　全学祈祷会
(16) 6 月 21 日　博士課程後期課程研究発表会
(17) 7 月 12 日　夏期伝道実習オリエンテーション
(18) 7 月 19 日　夏期伝道実習壮行祈祷会
　　説教：日本基督教団愛宕町教会　宍戸俊介　牧師
(19) 8 月 3 日　前期授業最終日
(20) 8 月 6 日　夏期休業開始
(21) 8 月 7 日～9 月 4 日　夏期伝道実習期間
(22) 9 月 5 日　公開夜間神学講座　２学期開始
(23) 9 月 13 日　大学院修士論文提出締切
(24) 9 月 20 日　後期始業式・始業講演
　　始業講演：「復活信仰の宗教史的土壌を探る」　中野　実教授
　　午後「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」
(25) 9 月 21 日　後期授業開始
(26) 9 月 24 日　日本伝道を担う青年の集い（対面とオンライン併用）
(27) 10 月 4 日　夏期伝道実習報告会
(28) 10 月 18 日～25 日　11 月入学者選抜願書受付期間
(29) 10 月 25 日　全学修養会基調講演Ⅰ　講演：近藤勝彦理事長
(30) 11 月 1 日　全学修養会基調講演Ⅱ　講演：釜土達雄牧師（七尾教会）
(31) 11 月 8 日～9 日　全学修養会（大学セミナーハウス）
(32) 11 月 23 日　11 月入学者選抜実施日
(33) 11 月 25 日　11 月入学者選抜合格発表

(34) 12 月 3 日　オープンキャンパス
(35) 12 月 6 日　日本伝道研究所主催講演会　講演：保科　隆牧師（隠退教師）
(36) 12 月 7 日　修士論文合格発表
(37) 12 月 16 日　クリスマス礼拝　説教：川上善子牧師（大久保教会）
(38) 12 月 17 日　冬期休業開始
(39) 1 月 10 日～17 日　2 月入学者選抜願書受付期間
(40) 1 月 10 日～12 日　教職セミナー　⇒　新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
(41) 1 月 10 日　教職者のためのオンライン・シンポジウム
主題「聖書的語りの共同体」　主題講演：芳賀　力学長
(42) 1 月 13 日　後期授業再開
(43) 1 月 17 日　第 2 回全学祈祷会
(44) 1 月 24 日　後期学生総会
(45) 1 月 27 日～2 月 3 日　3 月入学者選抜願書受付期間
(46) 2 月 8 日　後期授業最終日
(47) 2 月 10 日　芳賀力教授最終講義　「私の神学的求道の道」
(48) 2 月 14 日～15 日　2 月入学者選抜実施日
(49) 2 月 17 日　2 月入学者選抜合格者発表
(50) 3 月 3 日　2022 年度大学院前期課程修了者、学部卒業者発表
(51) 3 月 7 日　3 月入学者選抜実施日
(52) 3 月 9 日　3 月入学者選抜合格発表
(53) 3 月 9 日　卒業礼拝　説教：岩田昌路牧師（狛江教会）
(54) 3 月 10 日　卒業・修了式
告　辞：芳賀　力学長
励ましの辞：雲然俊美牧師（教団総会議長）
藤掛順一牧師（横浜指路教会）
(55) 3 月 11 日　ユースフォーラム
(56) 3 月 13 日　公開夜間神学講座　修了式